

特集「地域貢献・復興」の編集にあたって

串田 高幸^{1,a)}

日本全体が持続的に発展していくためには、大都市圏だけでなく、それ以外の地域も相補的に発展することが重要になってきます。また、企業においても社会的責任（CSR）の一環として地域社会に貢献して地域と共栄していくことが、最近、重要視されています。一方、大学においても学校教育法において、その果たすべき役割として、学術研究・人材育成に加えて教育研究の成果を広く社会へ提供することが示されており、教育研究を通じて社会や地域の発展に寄与することがますます重要になっています。

2011年3月11日に起こった東日本大震災から三年以上がたちました。この大震災で被災した地域の復興をより着実なものとするためには、地域に根差した丁寧な支援が欠かせません。このようなことから「地域貢献・復興」をテーマとした論文誌特集号を企画し募集しました。この特集号の論題として、具体的には「研究成果や知的資源の地域社会への還元」、「地域発の情報技術開発」、「地域を支える人材の育成」といった様々な内容の論文が考えられます。そこで本特集号では、情報処理学会が取り扱う研究分野に関連し、なおかつ地域貢献または復興に関連する研究内容をもった幅広い専門分野からの論文投稿を受け付けました。以下がこの特集号が設定したスケジュールです。

論文募集開始	2013年 4月15日
投稿締切	2013年 10月21日
査読・判定完了	2014年 4月28日
特集号刊行予定	2014年 8月号

本特集号には、提案時の予想を上回った24件の論文投稿がありました。このことは、従来の個別の技術分野にとらわれず、地域貢献・復興というテーマで技術分野を横断した実際的な研究が多く行われていることから、その研究成果の発表の場として投稿されたためではないかと考えられます。また企画当初は、特定分野からの論文投稿が多くなることを予想していましたが、実際には幅広い分野からの論文投稿があったことも特集号としては、特筆すべきことであると考えています。

本特集号の論文誌の査読および採録判定基準として、地

域貢献または復興に対する貢献度が高いと判断される内容が含まれていれば、事例報告やニッチなニーズの研究であっても積極的に採録する方針で行いました。また、それに加えて次の2つの点に配慮した査読を行いました。

- (1) 再試行や再現が難しい論文が多いと予想されることから1回だけの事例・実証であっても十分な考察が行われていれば、採録に足る信頼性があるものと判断すること。
- (2) 地域貢献・復興への貢献度が十分にあれば、有用性・信頼性を補うように評価すること。また、地域貢献・復興への貢献度が低い場合であっても、システムそのものに有用性が高い場合は、積極的に採録と判定すること。

この査読方針をもとに査読を行った結果、今まで読者に有益であっても基幹論文誌では採録が難しかった論文を本特集号では採録することができたと考えています。本特集号に投稿された論文24件のうち、論文7件を特集号論文として採録することができました。

さらに本特集号では、地域貢献・復興のテーマで先進的な研究をされている著名な方々をお招きして特集号に則した下記の4件の招待論文を掲載することができました。

- (1) 招待論文
著者：上平崇仁, 栗芝正臣, 杉田このみ, 福富忠和, 藤原正仁, 星野好晃, 松永賢次 (専修大学)
タイトル：情報学を学ぶ学生たちを活用した地域貢献活動の事例
- (2) 招待論文
著者：村山優子 (岩手県立大学)
タイトル：Issues in Disaster Communications
- (3) 招待論文
著者：服部 武 (上智大学)
タイトル：東日本大震災と情報通信ネットワークのあり方
- (4) 招待論文
著者：奥村晴彦 (三重大学)
タイトル：The 3.11 Disaster and Data

本特集号は、復興・地域貢献と現実的なテーマを論文誌の特集号としたことにより、複数の分野をまたがった現実

¹ 日本アイ・ビー・エム株式会社東京基礎研究所
IBM Research, Research-Tokyo, Koto, Tokyo 135-8511 Japan

^{a)} kushida@acm.org

的な問題に対する研究成果の発表する場を設けることができたことが大きな成果であると考えています。また本特集号には、当初の予想よりも多数の論文投稿があり、特集号編集委員の方々とともに査読判定処理を通して、幅広い分野の論文に対する編集経験を積むことができました。今後、このような複数分野にまたがった実践的なテーマの特集号を継続して刊行することが望ましいと考えています。情報処理学会の論文誌として、積極的に新しい特集号論文を企画してテーマに合わせた柔軟な査読基準を設定することによって、従来の論文誌では、掲載することが難しかった有益な論文を特集号によって積極的に出版していくことが可能になると考えています。

本特集号論文の企画、論文投稿の呼びかけ、論文の査読、特集号編集委員会への出席をしてくださった特集号の幹事、委員の方々に御礼をお申し上げます。また、本特集号を査読してくださった査読者に感謝申し上げます。最後に獨協医科大学の坂東宏和には、多忙なところ特集号全体の取りまとめを行ってくださったことを深く感謝いたします。

「地域貢献・復興」特集号編集委員会

- 編集長
申田高幸（日本 IBM）
- 幹事
中村大賀（日本 IBM）、石原 進（静岡大学）、吉田 稔（徳島大学）、坂東宏和（獨協医科大学）
- 編集委員（順不同、敬称略）
伊藤一成（青山学院大学）、井口 寧（北陸先端科学技術大学院大学）、小川将克（上智大学）、金岡 晃（筑波大学）、神原誠之（奈良先端科学技術大学院大学）、倉掛正治（NTT ドコモ）、児玉公信（情報システム総研）、戸川 望（早稲田大学）、中山泰一（電気通信大学）、西出隆志（筑波大学）、長谷川まどか（宇都宮大学）、福田直樹（静岡大学）、藤井秀樹（東京大学）、堀山貴史（埼玉大学）、水口 充（京都産業大学）、宮村浩子（日本原子力研究開発機構）、由井蘭隆也（北陸先端科学技術大学院大学）、吉高淳夫（北陸先端科学技術大学院大学）、吉野雅之（日立製作所）